

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:163.

看護師のためのメンタル・ケアの検討

鈴木笑子

看護師のためのメンタル・ケアの検討

看護部 鈴木 笑子

目的

これまで、がん看護においてスタッフのメンタル・ケアには、どのようなリスク要因があるのか、また予防方法や対処を、根拠を基に明らかにされてこなかった。そこで先行研究の文献研究を通じて現在まで明らかにされている根拠を集積し、がん看護に従事する看護師のメンタル・ケアの方向性を見出す。

方法

研究デザインは文献研究とし、2000年から2010年の文献検索を行った。国内文献については医学中央雑誌で燃え尽き and がんをキーワードとして検索した。国外文献についてはPubMedで stress and burnout and oncology nursing をキーワードとして検索した。分析方法はエビデンス水準 (Agency for Health Care Policy and Research) に基づいて分析を行った。

結果

文献検索の結果、16文献を抽出し、エビデンス水準 1a が 2 件、2b が 2 件、3 が 10 件、4 が 2 件であった。研究対象者は看護師 10 件、医師と看護師 2 件、他 4 件であった。リスク要因は個人要因、集団要因、組織要因、社会や文化の 4 要因から構成された。予防戦略は同僚との良好な関係、コミュニケーションやコーピング能力の

向上を目的とした教育プログラムへの参加、同僚間での悲嘆ケア、バーンアウトの機序や予防の戦略、対処の知識を持つことの 4 方法が抽出された。対処としては周囲の人間が 6 段階の回復を支援すること、病院のサポート体制があった。

結語

今回の調査結果は文献数とエビデンスレベルに限界のある文献研究であった。看護師の燃え尽きのリスク要因は 4 要因 - 個人要因 (結婚状態、配置希望、年齢、Maslach burnout inventory のスコア、性格、性別、経験年数、コーピング行動)、集団要因 (他職種との関係、患者・家族との関係、同僚との関係)、組織要因、社会や文化 - があり、4 つの予防方法があった。また、回復の段階を理解し支援することや組織としてのサポートの調整が重要であった。ここからがん看護に従事している看護師はセルフケアを意識すること、そして周囲のスタッフは個人要因だけから燃え尽きのハイリスク者を選定するのではなく、集団要因、組織要因、社会や文化も考慮し、俯瞰的な視点で理解していく必要が示唆された。